



平成20年4月24日

各位

会社名 オリエンタル酵母工業株式会社
 代表者 代表取締役社長 内藤利邦
 (コード番号2891東証第二部)
 問合せ先 取締役経営企画本部長 森裕行
 (TEL. 03-3968-1125)

通期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成19年11月8日の中間決算発表時に公表した平成20年3月期(平成19年4月1日～平成20年3月31日)の業績予想を、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 当期の業績予想数値の修正(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

①連結業績

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 61,800	百万円 2,200	百万円 2,400	百万円 1,330	円 銭 40 37
今回修正予想(B)	61,800	1,760	1,950	1,130	34 31
増減額(B-A)	—	△440	△450	△200	△6 6
増減率(%)	—	△20.0	△18.8	△15.0	△15.0
ご参考 前期実績(平成19年3月期)	61,015	2,333	2,630	1,856	円 銭 56 32

②個別業績

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 55,000	百万円 1,240	百万円 1,610	百万円 970	円 銭 29 44
今回修正予想(B)	55,000	800	1,140	770	23 38
増減額(B-A)	—	△440	△470	△200	△6 6
増減率(%)	—	△35.5	△29.2	△20.6	△20.6
ご参考 前期実績(平成19年3月期)	54,036	1,232	1,524	1,262	円 銭 38 31

2. 修正の理由

(1) 個別業績

個別業績につきましては、売上高はほぼ公表数値とおりであります。しかしながら、食品部門やバイオ部門の飼料関係の主要原料であります糖類、油脂、大豆油等の植物油、乳製品やとうもろこし等の穀物は、世界的な需要の増加に伴う需給逼迫により高騰いたしました。しかも一部穀物相場におきましては需給関係以外に投機資金の流入等により、高値を更新するなど、総じて過去にない高水準で推移いたしました。同様に原油価格も高騰を続け、エネルギー費や包装資材費等のコスト負担も一層多くなり、大変に厳しい状況が続いております。

当社では、価格改定や更なる生産性の向上とコストダウンを進めるなど、コスト吸収施策を進めてまいりましたが、充分には吸収できませんでした。

また、バイオ部門の実験動物関連や研究支援事業等のラボラトリーアニマルサイエンス事業は、医薬品業界の再編に伴う研究開発施設の統合や、外資系製薬企業の研究部門の日本からの撤退、国公立大学の法人化による科学研究費補助金の見直し等の影響を受け、市場環境は大変厳しい状況にあり、売上が低迷し収益圧迫要因となりました。

以上のような要因から、営業利益、経常利益、当期純利益の通期業績予想を修正いたしました。

(2) 連結業績

連結業績につきましては、売上高はほぼ公表数値とおりであります。営業利益、経常利益や当期純利益につきましては、主として個別業績の落込みにより通期業績予想を修正いたしました。

※上記業績予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づいて判断したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

以上